



活動報告

■かながわジュニア・フォレスター教室 2025 第 33 回「森に学ぼう」

日 時 : 3月20日(金・祝) 9:30~15:15

場 所 : 名瀬の里山

参加者 : 12名(こども6名、大人6名)

JFIK スタッフ : 角田、渡邊、田中(真)、西岡、福田、小澤、高田、藤田、鈴木(康)、阿部、鈴木(茂)、田中(哲)、三樹

概 要 :

当日の天気予報はいまいち、やきもきしながらスタッフは集合。当日のキャンセルもあり、参加者はグループ12人、うちこどもは6人。中には一人で参加する小2女子も。偉い!

受付も早々に早速池の橋に腹ばいになり、タニシを捕まえる男の子。「ここドジョウいる〜?」という声に名瀬谷戸の会にしんちゃん(田中さん)が「いるよー!ここには名瀬メダカという固有種もいるよ」と優しく教えてあげていた。

揃って開会式のあと、さっそく2班に分かれて自然観察会へ。駆け回るクリハラリス、竹の特性や適切な管理、里山のあり方とは…などを教えてもらいながらのんびり谷戸を歩く。芽吹き始めた木々の下ではウラシマソウやヒトリシズカが咲き、畑にはナノハナ。里山散策を満喫して戻り、ここで昼食。

寒いからとドラム缶で火を焚いてくれていたのだが、これが当然のようにこどもたちに大人気!竹やら木片やらを燃やしてご満悦。火があるとぐっと楽しく雰囲気も親密になると実感。



里山の自然観察



雨の竹とんぼ作り

そして午後は「竹とんぼ」作りから。しかしここで無情にも雨が降り始める…。この竹とんぼ作り、かくさん(角田さん)手作りの作成道具が素晴らしくて誰でも上手にできるよう工夫されているのだが雨で濡れてしまい、皆さん若干苦戦…。それでもスタッフが傘を差しあい頑張って仕上げてもらい、雨足もだいぶ収まってきたので広場に集まって、自作の竹とんぼ飛ばしお披露目大会。竹とんぼってうまく飛ぶと気持ち良いものですねー!

締めくくりはおざりん（小澤さん）のネイチャーゲーム。雨も降ったので心配したものの、参加者は皆さんとても元気！最初は「フィールドビンゴ 木のカード」。カードに書かれた「横の模様の幹」「両手で抱えられない」「ちくちくする葉」など 16 項目を一つずつ班の全員で確かめながら探していく。これはどう、あっちにもあるよ、などワイワイ楽しそう！そして次は聴診器で木の音を聴いてみよう体験。実際に木の音は聞こえないというけれど、今までの賑わいがずっと静まり、皆が集中して耳を澄ませているのがわかる。これも素敵な時間。



ネイチャーゲームの一コマ

最後は参加者全員に感想文を書いてもらい、一人参加の小 2 女子を始め素晴らしい感想を聞くことが出来て、「やって良かった〜！」とスタッフ冥利につける充実感を感じることができたジュニア・フォレスターでした。

(三樹 記)



■名瀬谷戸の会

1 回目 定例活動

・日時：3 月 7 日（土）10:00～15:00

・参加者：合計 28 名

JFIK：8 名 地元・地域：9 名 ファミリー：2 名 横浜メダカの会：9 名

- ・作業内容：●午前中、安全研修 1 回目実施 ●ゾーン 6 のモウソウチクの間伐、ゾーン 5 のモウソウチクの間伐・片付け ●ゾーン 6 に放置されていた、伐採木を小屋脇の薪材置き場近くに搬出
- こども里山体験班：名瀬谷戸農園の草取り、耕運機掛け ●横浜メダカの会：竹チップ敷き、水生生物調査、水質調査、給水タイマー修理 ●かながわジュニアフォレスター教室下見の実施



集合写真

2 回目 定例活動

・日時：3 月 15 日（日）10:00～15:00

・参加者：合計 15 名

JFIK：5 名 地元・地域：2 名 ファミリー：8 名

- ・作業内容：●ゾーン 6：伐採木をリヤカーで 7 台搬出。搬出はすべて完了。●こども里山探検班：落ち葉の布団・竹枝のトランポリン遊び、コップ作り、食器づくりなど ●かながわジュニア



伐採木の運搬

フォレスター教室のリハーサルの実施

3 回目 定例活動

- ・日時：3 月 16 日（月）10:00～12:00
- ・参加者：合計 19 名
JFIK：7 名 地元・地域：11 名 見学：1 名
- ・作業内容：●安全研修 2 回目実施 ●近藤竹林、お墓後方の斜面の間伐



安全講習

4 回目 午前降雨天気予報のために中止

- ・日時：3 月 23 日（月）13:00～14:40
- 4 月 4 日の名瀬谷戸の会創設 10 周年記念の打ち合わせだけを実施

（福田 記）

■神奈川の身近な自然を訪ねて～南足柄の春めき桜・春の草花～

日時：3 月 18 日（水）、3 月 21 日（土）10:00～15:00

参加者：一般 48 名（18 日 23 名、21 日 25 名）

スタッフ：鈴置、久野、西岡、田口、河野、鈴木（康）、鈴木（茂）、広川、菅原（啓）（9 名）

コース：小田急新松田駅→ままたバス停 →福沢コミュニティーセンター→一ノ堰ハラネ →福沢公園→岡野ふれあい公園→瀬戸屋敷（昼食）→あじさい公園→上島バス停 →小田急新松田駅（歩行距離約 5 km）



一ノ堰ハラネの春めき桜

3 月 18 日、21 日、穏やかな桜日和に恵まれ「南足柄の春めき桜・春の草花」の観察会を行った。2000 年 3 月地元で作出された「春めき桜」は近年その淡紫ピンクで上品なぼかしの入った色合い、さらに香りが良いことでも人氣が急上昇している。

ままたバス停を降りしばらく歩くと、金時山、矢倉岳を望む田園地帯に入り、用水路沿いにはツクシ、ナズナ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、タネツケバナ、ホトケノザの群落、アケビの紫色の花も咲いていた。

福沢小学校脇を抜けると「一ノ堰ハラネ」、酒匂川の文命堤から引き込んだ用水路脇の斜面一帯に約 120 本の「春めき桜」がまさに満開状態、一帯を明るく染めていた。枝先にまとまって花がつく豪華な花姿、ほのかな香りも楽しむことができた。

ところどころにハナモモも植えられ、サクラとの違いも確認できた。菜種油をとるために植えられているのだろうセイヨウアブラナも満開で鮮やかな黄色がサクラのピンクにアクセントを添えていた。

福沢公園までの裏路地では最近めっきり姿が見られなくなった春の七草の一つハハコグサが鮮やかな黄色の花、白い葉をつけ、隣にはフキノトウの雌花の茎が大分高く伸びていた。細い水路にはセリがせり合い小さな花をつけていた。すぐ脇にはビニールを張った 10 m 四方ほどのプールがあり、地元の方に伺ったらウキクサを栽培しているのだという。栽培者ではなく詳しいことは聞けなかったが、おそらく金魚などの餌にするミジンコウキクサかもしれない。近年、ウキクサは成長が早く、栄養価も高いとのことで食料源としても注目されている。庭先に色変わりのツバキ、ライラックの花も咲いていた。満開のスモモの白い花、岡野ふれあい公園ではオカメザクラも楽しむことができた。一帯の農道脇でも春めき桜が目を楽しませてくれる。

昼食は瀬戸屋敷。江戸時代に名主をつとめた瀬戸家のお屋敷で、6 月頃の「アジサイ祭り」では多くの人を訪れることでも知られている。手入れの行き届いた敷地内でも春めき桜が満開、オオアラセイトウの紫の花も見ごろでカイドウも蕾が開き始め、色変わりのボケも見事だった。参加者の男性がボケに帽子をかぶせ「ボケボウシ」と笑いを誘っていた。

午後は上島バス停まで。途中、農家入口で野菜を無人販売していたが、庭先まで入れていただき、シュンギク、ブロッコリーを買い求めた。「春キャベツもとってくるよ」と言われたが重いので丁重にお断りした。地元の方々とのちょっとしたふれあいも楽しみの一つ。アジサイロードにはエドヒガン、オカメザクラも咲いていた。白いあじさい・アナベルはすっかり刈り込まれていたがこれからどんどん背を伸ばし6月頃見事な花をつけることだろう。

好天に恵まれ、桜の満開もぴったりで、箱根外輪山の山並、里山の風情、春の草花、水の豊かさ、参加者の皆様から良かった、楽しかったとの声が聞かれた。 (菅原 (啓) 記)



農道の春めき桜

■「屋外」勉強会『安全講習会』

日 時 : 3 月 14 日 (土) 13:00~15:00 (終了後に任意参加の探鳥会)

場 所 : 大和市「泉の森」自然観察センター・しらかしのいえ 多目的ルーム

講 師 : 角田昌司 (H20)

参加者 : 阿部、石川 (雄)、薄木、梶浦、川島、河野、久次米、蔵田、鈴木 (茂)、竹山、田中 (哲)、中澤 (均)、塙、日比野、三樹、和田 (昇)、佐藤 (淳)、嶺 計 18 名

コロナ禍以降、JFIK の安全講習会は Zoom で開催されてきたが、今年は新歓が開催された大和市「泉の森」での開催となった。今回は新会員や会のイベントに参加したいと思っている会員の方々を対象に JFIK の各種イベント紹介、また座学終了後には泉の森探鳥会も実施され、盛り沢山な内容となった。

(1) 安全講習会

当会の安全管理責任者の角田さんから安全管理におけるポイントの説明があった。まずは森づくり作業での安全管理から。基本は予防。怪我をしないさせない、身体を傷めないこと。長袖・長ズボン・ヘルメット・登山靴・作業靴のような厚底の頑丈な靴の着用は勿論だが、自分の行動が安全かどうか想像力をフルに活用し、周囲状況の把握に努め、行動は急がず、無理をせず、能率・効率を追求しすぎないことなど。これらの多くは野外活動全般にも言えることばかりだ。また梶浦さんから首タオルの実演があった。チップなどが飛んできて頸動脈に当たると命に係わる。野外作業における首タオルの重要性が良く分かった。

活動が本格化する季節になると心配なのはマダニ、スズメバチ、熱中症である。それぞれの対策について角田さんから説明があったが、詳しくは書けないので、会員専用ページにアップした資料をご参照頂きたい。

万一救急の事故が起こったら、119 番へ連絡することは誰もが分かっているが、現場では救急車を呼ぶべきか、直ぐに病院に行くべきかなど迷うケースも多いと思う。このようなケースでの相談窓口として救急安心センター事業 (#7119) の紹介があった。神奈川県にもセンターがあり、24 時間 365 日相談を受けられるようだ。

「シャープ、な、119 番」で覚える。市外局番 042 の固定電話からは 045-232-7119 または 045-523-7119。



安全講習会座学風景

当会ではCONE保険と呼ばれる「障害保険」に加入しており、当会が主催する野外イベントやクラブ活動などで保険を付与している。また、社会福祉協議会で加入できるボランティア保険も有効だ。

(2) 各種イベント紹介

当会の各イベントの担当者が参加し、それぞれのイベントの魅力と参加方法などを紹介した。今後の開催情報に加えて、普段は聞く機会のない各イベントと JFIK との最初の関わりなど、貴重な話も聞くことができた。

(3) 泉の森探鳥会 (臨時「鳥こい」)

座学終了後、泉の森の園内で鳥こい責任者の中澤 (均) さんをリーダーに探鳥会が行われた。座学参加者の多くが探鳥会にも参加。しらかしの池とその周辺ではダイサギ、コサギ、ゴイサギ (幼鳥)、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、カワウ等を観察した。また園内の散策路ではモズ、シジュウカラ、アオジ、エナガなども見られ、春めく日差しの中で泉の森の自然を楽しんだ。



しらかしの池での観察風景

今回は安全講習会に JFIK のイベント紹介や探鳥会も組み合わせて、楽しくかつ役に立つ集まりになった。イベント紹介の為に参加された担当の皆さんにも室内勉強会担当としてお礼を申し上げたい。 (嶺 記)

■山こい倶楽部 第 124 回企画「久保典子さん追悼山行 (大山) & ありがとう飲み会」

日時：3 月 8 日 (日) 7:30~19:30

集合：秦野駅 4 番バス停 7:44 ヤビツ峠行きバスに乗車

行程：ヤビツ峠～大山山頂～見晴台～九十九曲～日向薬師バス停

参加者：大山登山:加納 (リーダー)、竹山 (サブリーダー)、田口、篠田、三樹、中澤 (美)、田中 (文)、境、吉原、中澤 (均)、中澤 (靖)、引田 (12 名)

ありがとう飲み会:上記に加えて辻、松井、梶浦、久野、角田、鈴置 (合計 18 名)

概要：

<第一部:大山山行>

3 月の「山こい」は奥多摩の「吉野梅郷～日出山～つるつる温泉」が企画されていましたが、2 月 22 日に当会理事の久保典子さん (通称ナターシャ) が急逝され、急きょ「久保さん追悼山行」に変更されました。大山は久保さんの地元であり日々通われ、愛した山域です。山こい倶楽部発足当時から活動を盛り上げてくれた久保さんを偲び、遺影と一緒に大山へ登り、久保さんが山と同じくらい愛された酒を酌み交わす飲み会も開催しようという企画です。

秦野駅 4 番バス停集合、バスを待っていると、いつもの大きなザックを背負ったナターシャが元気な声で「おはようございまーす」と言って現れるような気がしました。勿論そんな



大山山頂で集合写真

なことはなく、7:44 発のバスでヤビツ峠へ。ヤビツ峠で黙とうを捧げ 8:35 に出発。快晴で、気温は低いですが前夜に降った雪がうっすらと積もって硬く締まったイタツミ尾根はサクサクと歩きやすく、尾根の展望の良い場所からは西側には真っ白な雪を被る富士山、南側は江の島から春がすみの大島まで望めました。10:10 に大山山頂 (1,252 m) 到着。山頂では境さんが一緒に登った檜岳 (ヒノキダッカ) で撮った写真を引き伸ばした遺影と共に集合写真を撮影しました。すると「この人見た事ある」と話しかけて来た女性の登山者がいました。この辺では有名な方だったのでですね。電波塔の横へ回り、愛鷹山から富士山とその奥に少し顔をのぞかせている赤石岳など南アルプスの

山々、手前にドンと並ぶ丹沢表尾根の山々の風景を堪能しました。10:40 に雷ノ峰尾根を下山。木の階段が続く急坂を慎重に下り 11:40 に見晴台に到着し昼食。ここで大山阿夫利神社の男坂を登って来た田中（文）さんと合流。文さんからは 2 月 15 日に下社登山口前でたまたまばったり出会い、山頂～見晴台まで一緒に歩いた時の「ナターシャと富士山」の写真を回覧してもらいました。普段は女性の写真を撮ることが無い文さんが、何故かその時に 1 枚だけ撮らせてもらったとのことで、これがナターシャ最後の山の写真になりました。更に全員分のポンカンを担いで来ていて 1 個ずつもらいました。重かったでしょうに…美味しかった。12:20 に見晴台出発。日当たりの良い尾根ではミツマタの花が枝先に開花し始めており、春が来た事を喜んでいるようでした。アセビとアブラチャンが目立つ灌木帯を下り、12:45 に「日向の石工 勝五郎地蔵」と書いた木の板が置いてある大きなお地蔵様の所で左折し、スギ、ヒノキの人工林の中の九十九曲を下山。道端には時折タチツボスミレなども顔を出していました。13:45 には九十九曲ハイキングコースの道標のある舗装された林道へ到着。お寺が並ぶ林道を下り 14:20 に日向薬師バス停へ到着しました。予定していたバスには 1 時間ほど余裕があったので、有志で日本三大薬師のひとつ日向薬師に参拝しました。日向薬師境内のミツマタはほぼ満開状態。また、参道に点在する伊豆箱根要素の「オニオンストラクチャー(玉ねぎ状構造)」もゆっくり観察できました。15:27 発のバスで伊勢原駅へ。第一部の大山山行は刻々と春が進んで来ていることが実感できた山行でした。

<第二部:ナターシャありがとう飲み会>

場所：木村菴（厚木市中町）

時間：16:30～19:30

概要：山こい倶楽部では毎回下山後、参加者有志で軽い飲み会を続けて来ました。今回は山と同じくらい酒を愛されていた久保さんを偲ぶ目的で、山行に参加できなかった方にも参加を募り計 18 名で酒を酌み交わしました。

久保さんの遺影をテーブルの端に置き、松井さんの挨拶で献杯した後、いつものようにワイワイガヤガヤとナターシャの思い出を語りながら、にぎやかに故人を偲びました。最後

に梶浦さん、田中（文）さんが久保さんとの思い出話を語り、松井さんが久保さんへの熱い思いを語って、久保さんがこれからも我々のことを見守ってくれるとの思いを胸に家路につきました。久保典子さんのご冥福をお祈りいたします。合掌。

(引田 記)



ナターシャと富士山 (撮影：2 月 15 日 田中(文))

■森こい倶楽部 第 74 回

テーマ：「桑都（そうと）八王子、スプリングエフェメラルの片倉城址から絹の道・鮎の道」（八王子市・町田市）

日 時：3 月 1 日（日）10:00～15:00 晴

参加者：引田、鈴木（茂）、漆原、三樹、藤井、久次米、皆川、石川、金子、久野、広川、会員外 5 名、以上 16 名

コース概要：JR 片倉駅→片倉城址公園→住吉神社→片倉駅入口→🚗→片倉台→石橋入緑地→北野中央公園→大塚山公園（道了堂跡）→絹の道→絹の道資料館（昼食）→小泉住宅→板木の杜緑地→鎌水中央公園→小山内裏公園（鮎の道→大田切池→パークセンター→野草見本園→尾根緑道）→京王相模原線多摩境駅

開催概要

今回は桑都といわれ、絹産業で栄えた八王子市を訪れました。八王子は、戦国時代は後北条氏及び徳川氏の軍事拠点で城下町、江戸時代は甲州街道の宿場町（八王子宿）として栄え、古くから絹織物産業や養蚕業が盛んであったために「桑の都」及び「桑都」と呼ばれました。明治以降、群馬富岡製糸場の生糸や八王子の絹織物が横浜の港から輸出されるようになり、八王子と横浜を結ぶ道が「絹の道」と名付けられたのです。



片倉城址



ミスミソウ

JR 横浜線八王子駅のひと駅横浜寄りの JR 片倉駅からスタートです。まず片倉駅近くの中世城郭の形態を残す片倉山城址へ。城の主郭に登る途中でスプリングエフェメラルたちに出会いました。カタクリは紫褐色の斑紋がある若葉の群落をつくり、ミスミソウは淡い紫色の小さな花を咲かせています。林間の早春の風景です。

片倉城の城郭の鬼門にある城の鎮守住吉神社近くからバスに乗り、石橋入緑地へ。整然とした住宅街を歩き北野中央公園で小休止。更に長い階段を上り標高 213 m の大塚山に到着。眼下に片倉や八王子の街が見えます。ここは八王子の鑪水（やりみず）と言う地区の北端で、江戸時代、八王子の絹織物や生糸はこの地区にいた「鑪水商人」たちによって、幕末鎖国時代の横浜から密貿易されていたと言われていています。その輸送ルートが「絹の道」で、現在の JR 横浜線が開通した 1908 年（明治 41）まで栄えました。大塚山から絹の道資料館までの未舗装の「絹の道」は、文化庁指定の「歴史の道百選」に選ばれた道です。その山道のような「絹の道」を歩いているとき、ゼッケンをつけた老若男女のマラソンランナーが追い越していきました。ゼッケンには「絹の道を走る」と書いてあり、なんと、群馬「富岡製糸場跡」から横浜「山下公園」までの 150 km、生糸生産工場跡の富岡から生糸輸出港の横浜まで正真正銘の「絹の道」を 2 日間で走るレースだとか。なんたる体力、気力、筋力、関節力。「森こい」の参加者みんな拍手で応援しました。絹の道資料館でお弁当です。



絹の道



大田切池

お弁当の後は、民俗文化財の茅葺き「小泉住宅」、板木の柱緑地を経由して「絹の道」は多摩ニュータウンに入ります。津久井方面から江戸に鮎などを運んだ「鮎の道」から、枯れ木が林立する大田切池へ。上高地の大正池のようでした。ウグイスカグラやダンコウバイが咲く小山内裏公園を過ぎると今日のゴール京王線多摩境駅に到着。絹の道で栄えた街道、早春の気配が僅かに感じられる里地里山を歩いた一日でした。

(広川 記)

■鳥こい倶楽部 2026 第 4 回「春：酒匂川の野鳥」

日 時：3 月 29 日（日） 10:00～15:00 快晴

コース：蛍田駅（集合）→酒匂川→扇町しらさぎ広場→スポーツ広場（昼食）→酒匂川河口→小田原東高校前バス停

参加者：角田（案内人）、中澤（均）、山本（明）、藏田、松井、金子（正）、久野、漆原、西岡、中澤（美）*、細谷*、国領* 以上 12 名（*：一般）

ぽかぽかの春の日で、かすみがかかった箱根や丹沢の山を眺めたり、
 ほぼ満開の花見を楽しんだりしながらの鳥こいでした。

蛍田駅ではイソヒヨドリが迎えてくれました。

酒匂川に出たところでは、イワツバメが飛びかい春を告げていまし
 た。また、コチドリ、タヒバリ、カワアイサなどもいて本格的な観察
 の開始です。ここからは昼食をはさんで酒匂川沿いを河口まで下りな
 がら観察していきました。

飯泉取水堰の少し上流の国道 255 号の下付近が今日は一番野鳥の種



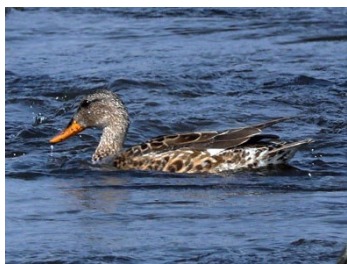
酒匂川を下りながら観察



酒匂川河口で集合写真

類が多く、換羽のためなのか羽が一部欠けたミサゴ、イカルチド
 リ、カンムリカイツブリ、オカヨシガモ、ヒドリガモとアメリカ
 ヒドリの交雑個体などを観察しました。途中では、コチドリのデ
 イスプレイの様子も見られました。

最終地点の酒匂川河口は砂州になっており、ウミネコ、ユリカ
 モメ、カンムリカイツブリ、コサギが見られました。休日でも人
 が多かったためか、平日の下見で見られたというクロサギやアビはいま
 せませんでした。
 (西岡 記)



オカヨシガモ♀ (金子)



コチドリ (中澤 (均))



ミサゴ (中澤 (均))

<観察種>

- 1.オカヨシガモ、2.ヒドリガモ、3.アメリカヒドリ雑種、4.カルガモ、5.マガモ、6.コガモ、7.ホシハジロ、8.キンクロハジロ、9.カ
 ワアイサ、10.キジ、11.キジバト、12.オオバン、13.コチドリ、14.イカルチドリ、15.タシギ、16.イソシギ、17.ハマシギ、18.ユリ
 カモメ、19.ウミネコ、20.セグロカモメ、21.カイツブリ、22.カンムリカイツブリ、23.カワウ、24.コサギ、25.ダイサギ、26.アオサ
 ギ、27.ミサゴ、28.トビ、29.モズ、30.ハシボソガラス、31.ハシブトガラス、32.シジュウカラ、33.ヒバリ、34.セッカ、35.ツバメ、
 36.イワツバメ、37.ヒヨドリ、38.ウグイス、39.メジロ、40.ムクドリ、41.ツグミ、42.ジョウビタキ、43.イソヒヨドリ、44.スズメ、45.セ
 グロセキレイ、46.ハクセキレイ、47.タヒバリ、48.カワラヒワ、49.ホオジロ、50.アオジ 番外ドバト

◎ 月間ブックレビュー

書名：鳥たちが彩る日本史

著者：大橋 弘一

出版社：山と溪谷社

発行日：2025 年 9 月

価格：1,650 円（税込み）

感想：神奈川県出身の大橋 弘一先生は、ラジオやテレビにもご出演しているのでご存じの方も多と思います。野鳥の専門家でもある大橋先生が日本史を紐解いて、神奈川県民として身近な鳩サブレが何故鎌倉銘菓なのか、鳩と八幡宮との関係性、鳩が居なかったら鎌倉幕府はなかったかもしれないといった興味深い話がとても分かりやすく面白く読めます。他にも、ウグイスの名前の由来や 1,000 年以上歴史の資料に登場してくるウグイスと人との関わりの変化など、単なる図鑑には載ってないような情報が沢山載っています。菅原道真とウソ、松尾芭蕉とキジ、伊達政宗とセキレイなど歴史上の有名人と鳥たちがいかに関わっていたのかが分かる、鳥好きにもそうでない人にもオススメの一冊です。

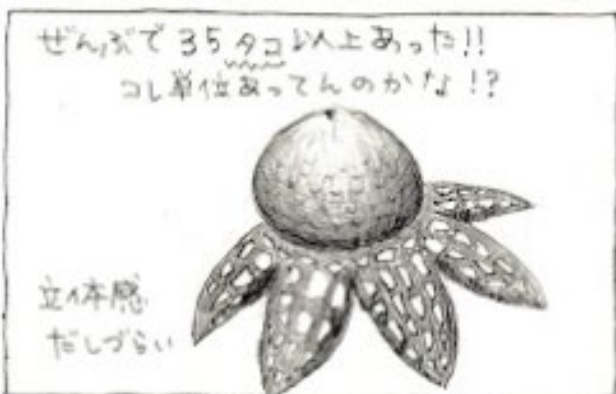
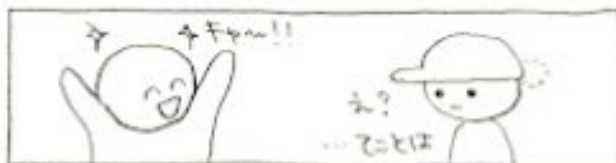
森林インストラクターの活動の中で鳥に関する知識が求められることもあります。きっとこの本からいくつも話の材料が得られるのではないかと思います。「～ス」、「～メ」、「～トリ」はすべてトリを表す接尾語であるとか、名前の由来が鳴き声から来ているもの、見た目から来ているものなど、説明の仕方によって参加者の興味を惹くことが出来ると思います。



(橋本 記)

森のエピソード 第 111 話

森のエピソード 作/とりしほみ
2026-4
[No.111, ふたつのセリフをトッキング]



📌 掲示板

3月度の会員異動

3月27日現在 会員数175名

月例会が開催されました

日 時：3月27日（金）19:30～21:30 ZOOM 開催
出席者：理事11名、監事1名、会員2名 合計名14名

次回月例会

日 時：4月24日（金）19:30～ ZOOM 開催

会費納入のお願い

2026年（1月～12月）の会費納入をお願いします。

会 費：3,000円 納入期日：2月末日

振込先 横浜銀行 戸塚支店（359） 口座番号：普通預金 6174917

名 義：NPO法人 全国森林インストラクター神奈川会（エヌピーオーホウジン ゼンコクシンリンインストラクターカナガワカイ）
横浜銀行のカード振込をされますと手数料がお得です。※銀行振込での会費納入をお願いします。
ご質問等ありましたら、会計担当 石川までご連絡下さい。メール：amelieamelie92@gmail.com

編集後記



新体制で会報デザインも一新しました。活動予定などについてはメーリングリストにてご確認ください！（埴）

発行者：NPO法人全国森林インストラクター神奈川会（略称 JFIK） 発行人：中澤 均

編集人：埴 洋彰 投稿用メールアドレス：editorial@jfik.org

事務局所在地：〒226-0026 横浜市緑区長津田町 3016-1-943 電話：(045) 985-3865 メール：info@jfik.org

事務局長：中澤 均：h-naka@k04.itscom.net

©NPO法人全国森林インストラクター神奈川会 記事・写真等の無断転載を禁じます。